

目指す学校像	南高生の誇り10箇条を座右の銘とし、人格の完成を目指し、豊かな情操を養い、探求心旺盛な自主自立の精神に満ちた心身共に健康な民主的社会人の育成を期する。
重点目標	1 主体的に学習できる生徒の育成と進路実績の一層の向上を図る。 2 活力と特色ある教育活動を推進する。 3 地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標					年度評価		実施日 平成29年 2月 6日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	進学重視型単位制高校に移行して3年が経過し、教育課程等を総括・改善する時期にある。生徒の進路希望実現のため、多様な教育活動を通して、学習意義の理解・学習意欲の向上を深め、志望の明確化と進路実現に向け早期から取り組む環境整備を推進することが重要である。 また、生徒アンケートによる「教え方が工夫されていて授業がわかりやすい」と答えた生徒の割合は、49.2%(H25)→51.7%(H26)→55.5%(H27)と年々増加しているが、さらに授業改善を進めていく必要があることに変わりはない。 一方で、学校での補習のほか、外部機関と連携した多様な学習活動を提供していくことにより、自主的な学びの姿勢を育成していく必要がある。	授業改善の推進による確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> より良い教育課程の編成に向けた検討 生徒アンケートを活用したニーズ把握と改善策の策定 学習指導を通し、生徒の学習への自主的な姿勢を育成 	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向けたより効果的な教育課程の改善 学習環境の計画的な整備 「授業がわかりやすい」と感じる生徒の比率2/3超 学校行事等を活用した学習指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 34単位新教育課程及び土曜授業の来年度導入に伴い、説明会等で周知し履修指導の充実を進めた。 アンケート[授業満足度]は42.2% 学習合宿（1・2年次）の実施、埼玉大学連携事業2名参加、小高連携事業、1年次朝自習の実施。 図書館19時まで延長開館30回実施。延べ300名が利用(12月末現在) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程の実施に伴い、学級編成、時間割作成、講師及び教室の確保、土曜授業公開、学校行事との関連、履修指導の改善など、多岐にわたる見直しが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> アクティブラーニングの導入など、授業スタイルが変わってきている時期である。単位制の学校として、先生方も苦勞している。生徒と教員の距離を縮め、授業改善を図りながら日々の教育活動を進めることが重要と感じる。 進路ニュースの発行、大学模擬授業、進路説明会など生徒の進路実現に向けて丁寧に指導している。推薦入試の結果が出ているが、一般入試についても頑張りたい。 保護者との連携をさらに深め、大学入試改革に対応していただきたい。
		進路希望実現に向けた計画的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 進路情報の的確な伝達 ガイダンスへの積極的な参加の奨励 模試の有効活用の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 進路支援ツールの有効活用と迅速な進路情報提供 進路希望に対応したガイダンスの計画・実施 補習の実施数と参加生徒数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> スタディサブリ説明会を実施し、効果的な活用を指導し加入者が増加した。 大学見学会、大学説明会、教授による模擬授業を実施した。また、保護者対象の大学見学会（69名参加）、進路説明会（約8割参加）、進路講演会を実施し、家庭との連携を深めた。 夏季休業中の3年次補習は31講座（90分170回）、延べ参加生徒3100名で昨年並みであった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 新たな大学入試制度に対する研究と対応が急務である。 保護者の進路行事への積極的な参加を促すなど、保護者の進路意識を高める必要がある。 	
2	「3つの感動体験」（社会探検工房・海の生物学・海外研修旅行）をはじめとする様々な教育活動は、生徒の知的好奇心を高め、能動的な学習態度を醸成するための基礎となる事業である。 これらの活動の内容を改善し、希望者参加事業の参加者を拡大する必要がある。また「社会探検工房」「海の生物学」や国際交流などの体験事業参加者の体験発表などを通して、多くの生徒へ内容を周知するとともに、各行事相互の関連強化を図り、教育効果を高めていきたい。今後も本校の特色ある教育活動の柱となるよう、継続的な推進が必要である。	体験活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 社会探検工房、海の生物学、海外研修旅行、海外短期派遣(ニューズ・フロント)等の事業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 各事業の目的達成と成果の分析及び活用 教育効果を高めるため、地域・関係機関との連携強化 自主的に学ぶ姿勢の醸成と生徒の積極的な参加 	<ul style="list-style-type: none"> ネットトラブル防止教室、18歳選挙等、他機関連携行事を実施した。 HR等での指導の結果、参加数を拡大できた。交通安全キャンペーンや学習等のボランティア等の地域貢献活動にも、多くの生徒が参加。 南三陸での「震災と復興」体験学習を実施し、発表の場を3回設け学習成果を共有した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ネット社会、高校生の政治参加などの社会環境の変化に伴い、今年度も様々な啓発教育活動を実施した。時間的な制約があるなかで、行事の精選・講師確保など効果的な活動に改善していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 海外研修旅行や海外派遣事業はコミュニケーション能力の育成、国際理解教育の推進に大いに有効であると感じる。 社会探検工房での企業・被災地訪問は普通の高校生では体験できない貴重なものである。参加人数を増やす工夫をし、今後も継続していただきたい。 海外派遣事業のホストファミリーの開拓を頑張りたい。 タウンミーティングをはじめ、市の行事への積極的な参加は喜ばしいことである。生徒さんの活躍を区の広報誌にも載せたい。情報提供を是非お願いしたい。
		学校行事及び課外活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の円滑な運営 部活動への積極的な参加の働きかけ 指導体制、活動環境の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動の活性化と学校行事の充実を感じる生徒の増加 部活動加入生徒の増加 グラウンド改修に伴う活動場所の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 海外派遣生徒を10名に拡大した。 アンケート[行事満足度]は78.9% 部活動加入率は約92%で昨年並みであるが、全国・関東大会出場、県大会で活躍する部が増加した。 小中学校の協力を得て、工事に伴う一定の活動場所を確保できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 派遣先でのホストファミリー不足、交流プログラムの充実について、検討中である。 	
3	辻小虹色チャレンジスクール・夏休みおもしろサマースクール・ジュニアインタープリター・星空観覧会・サッカー教室・書道教室・卓球教室等、近隣の小中学校や自治会との連携を積極的にやっている。 本校教育活動への理解をより深めていただくため、地域に開かれた信頼される学校づくりを、さらに推進していくことが求められる。	開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 近隣小中学校、辻地区、さいたま市及び南区との連携推進 広報活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 各連携事業等の活性化とその成果の職員間での共有、連携意識の向上 HPを活用したきめ細やかな情報発信 一斉配信メールを活用した保護者との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> 地域貢献や機関連携など地域での生徒の活気ある取組が拡大した。 HP更新は月平均9回程度。昨年度より更新回数を増やし効率的に情報発信できた。 一斉配信のほか年次・HR単位での新たなメール活用が拡大できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ネット活用の情報発信において、文字情報では伝えにくい側面もあり、問い合わせをいただくこともある。誤解を招かず、分かりやすい表現で、なお且つ迅速な発信について継続的に改善に努めなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 活発な情報発信を行っている。今後も継続していただきたい。 学校からの配布物が子どもを經由して家庭に届かないことがあるが、メール配信システムの活用により、徐々に家庭に浸透しだしている。親子のコミュニケーションツールとしても役立っている。 管理するだけでなく、親身になって指導していることがうかがえる。遅刻者数の減少も素晴らしい。今後も事故防止、基本的生活習慣の確立の指導をお願いする。
		安全・安心な学校環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の交通マナーアップ指導の推進 規範意識を向上させる生徒指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校指導の計画的な実施と生徒の交通安全並びに交通マナー意識の向上 教職員の共通認識に基づく指導体制の構築と生徒の規範意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車マナーアップ推進校の指定を受け、浦和警察署と風紀委員会が連携し、登校指導を実施した。 遅刻者数が1669名→1464名(-12.3%)4年連続減少。(12月末現在)。 AED3台を設置。点検・研修体制を整備した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も、登校指導、生活指導を継続的に実施し、安全・安心な学習環境を整備する。 	